



何年かぶりの水上ビルには  
懐かしい思い出と新しい期待が同居していた。  
水上に建ち続けるこの特異な建物で  
多くの人が行き交い、出会い、繋がってきた歴史。  
そしてその人たちが、ここでの懐かしい思い出と  
これからの新たな期待をもって  
このビルに次の歴史を作り始めていることを感じた。

まちなかモノ語りマップとは架空の主人公がまちなかを巡り、その魅力をストーリー立てて紹介するものです。



8 今も流れる水の上に

切つちやつた。友達が「あつ、水だよ！」と叫んだ。約800mという長さの先、ビルが途絶えた地点のこの足元に用水が流れているのが見える。「本当に水の上に建っていたんだね……」。当たり前ではあるけど、何故か感慨深いものを感じた。  
「本当に……ずっと流れていたんだね。」夕方になる少し前のちよつと感傷的になりそつた陽の光。「今から、まだまだこのビルを楽しもうよ。」と私たちは、陽が当たり、ビルが明るく照らされている反対側の通りへ折り返した。



水上ビル

水路の上に連なるビル群。  
豪華で新しいロングストリート。  
レトロなのに新しい  
**水上ビルの魅力**



3 食堂の記憶

久しぶりの水上ビルの散策はまちなか広場から始まった…と思ったとたんに「ランチにしない?」だって。確かにちょっとお腹もすいたし、お昼ごはんにしようか。レトロな喫茶店のランチにする? 新しく出来たたっぽい定食屋さん? と迷ったけど、懐かしい食堂のショーケースが残る外観に惹かれ、スピaggスカレーのお店に決定。店内は、手は入れてるけど昔の食堂の様子をそのまま感じられていい雰囲気。「ここ、昔は祖父が食堂をやつてたんですよ。その時分の雰囲気を残しつつリノベーションしたんだよ」と、一人で切り盛りする若い主人。レトロでモダンな店内の雰囲気以上に、「形を変え孫に受け継がれただこと、きっとこの食堂も喜んでるんだろうな」なんて思ったら、何故だかわからないけど自分までも嬉しく思ってきた。カレーはマイルドな辛さで二種盛りもあり、副菜もいっぱい付いてる嬉しい気分。二人ともお腹いっぱいまで、ごちそうをさまでした。



## 4 久しぶりの散策は 穀がソナの確認

久しぶりの散策は、懐かしさの確認と新しさの発見と。



が食はれていたこのヒノの木の下に、

「ここって何のお店かな?」と失礼にも図々しく覗き込んだ私たちに、たまたま居合わせたスタッフの方が丁寧に説明してくれた。「ここはお店じゃなくて、舞台映像を作っているスタジオなんですよ。」「ここにスタジオを作ったきっかけは、水上ビルが会場となつた『あいちトリエンナーレ』なんです。また、芸術の楽しさを伝える様々なイベント開催の場でもあるんですよ。」「そうそう『あいちトリエンナーレ』私たちも見に来たよね。」と友達。軀体がむき出しになつたビルの空間に、素敵な調和で作品が飾られていた。このビルのアートな歴史だね。



7  
トイツヒルには  
ソーセージが

あちこちお店を覗いたら、あれこれ欲しくなってしまうのは当然！ 雑貨屋のグッズ？ ドライフラワーのアレンジメント？ 洋菓子のティックアウト？ 「ああ迷うー。どれもいいな。」と友達。今回、私がチョイスしたのは、「めずらしい手づくりのジンジャーシロップ」。「えーっ、こんなのが初めて見た。」ボトルも可愛いくてプレゼントにもぴったり。すると「僕、以前は全く畠違いの職種で、サラリーマンでしたんですよ。」とオーナーさんが話してくれた。「あることをきっかけにシリコップ作りに出会って、そして、このビルが魅力的なのでここを拠点にお店を出そうと思ったんだす。」お店の奥が作業場になってるみたい。帰り際、「よかつたら利用してください。」と自分で作った「水上ビル散策マップ」も手渡してくれた。



14

ビールサーバーとレトロ感漂うインテリアが備え付けられたドイツビールとソーセージのお店。「まちなかに親の店があつたので、水上ビル周辺の移り変わりは身近に感じます。」と、準備中にもかわらず親切にご主人が話してくれた。「昔、両親がこの近くのビルでお店を構えて、ここは、まさにその店を移したようなものなんですよ。」「実際、このカウンターも椅子もその当時使っていたものを持って来たんです。」と、ご主人のこの店への思い入れを話してくれた。最初に感じた備品のレトロな感じは、この店の歴史そのものだったんだなど知った。私たちは、「また来ますね」と店を出ると、「ビールとソーセージ、次こそ絶対食べるぞ！」と、二人でわけのわからない誓いを立ててみた。

# TOYOHASHI まちなか モノ語りマップ 水上ビル VOL.01



駅前大通りに平行して牟呂用水が流れ、約800m暗渠化し、その上に立つのが長さ約800mの15棟からなる「板状建築物群」の水上ビル。当然今でもビルの下には水路が流れている。

**ROOTS**  
水上ビルのルーツは終戦直後の閑市までさかのぼる。終戦後の焼け跡に、自然発生的にできた閑市が、旧狭間小学校の跡地に「大豊商店街」として移転。その後、豊橋の中心市街地再開発のなかで、やむなく暗渠化した農業用水(牟呂用水)の上に建てられた。

大豊共同組合 代表理事  
**黒野有一郎氏**

## クロノさんの取り組み…

以前は水上ビルも、他の商店街にみられるような空き店舗が大きな問題でしたが、現在空き店舗はほとんどなくなりました。大きな取り組みの一つが、2015年から始めたアンティークマーケット「雨の日商店街」です。空き店舗の大家さんにスペースをお借りし、出店を希望する骨董店の方に利用してもらいました。結果、大家さんはお客様が集まる喜びを再確認し、出店者さんはお店の出し方を知っていたらしく、良いマッチングの機会を作ることが出来ました。その後は徐々に出店が増え空き店舗の数も減っていきました。また多くの方に、水上ビルの魅力を知っていただくことも出来ました。この取り組みからは大変大きな成果が生まれることとなりました。他に、2019年から始めた「つながるマーケット」です。各店舗と、その店先にも別出店者の方に店を出してもらい、多くの人に来ていただけるマーケットとして、「店と店、人と人が繋がる」をコンセプトにしました。今後、新たに出来たまちなか広場やまちなか図書館も含め、大きなが繋がりが出来ていくことと考えています。

## 今後の展望は…

今までやってきた取り組み(方向性)は間違っていたなと感じているので、これからも継続していきたいと考えています。今後は、水路の上に建つビルという、他の商店街にない特異な魅力を生かし、線(水上ビル)から広がる点(周辺の店舗などの活性)を増やすし、更には線と点を結んだ面として広い範囲が活性していくことが出来たらと思います。今、「20年生き延びる」を改めて宣言してもいいかと思います。今後時代や世の中の意識も変わっていくことで、「水上ビル」の魅力は、今以上に増していくかもしれない。また、ビル自体も歴史的な価値を持った建築物となるかもしれません。(笑)

### 1 ごはんや 松和

隠れ家のような定食屋さん。愉快な女将さんと美味しいでリーズナブルな心温まる料理。日替わり定食700円。お持ち帰りメニュー(要前日予約)の「松和天むす」はおすすめ。

◆090-4869-9213 ◆定休日:土日祝日

◆豊橋市神明町112 ◆T1:00-14:30

B-102



### まちなか図書館

世界を広げ、まちづくりに繋げる“知と交流の創造拠点”

### emCAMPUS

食・健康・学びを楽しみ、つながる、東三河の駅前の「笑む」に満ちたキャンパス。

### 2 COFFEE ROOM クローバー

昭和のレトロな雰囲気が残る、若者にも人気な喫茶店。自慢の鉄板スパゲティは「イタリアン」「ミート」「インディアン」などメニュー豊富。

◆0532-55-6616 ◆定休日:日曜日

◆豊橋市神明町112 ◆7:00-18:00

B-101



### 3 鈴木青果店

水上ビルの歴史と共に歩んできた、今では珍しくなった八百屋さん。野菜や果物はもちろん、生花や漬物と品揃えも豊富。

◆0532-52-7524 ◆定休日:日曜日

◆豊橋市駅前大通 2丁目71番地D-1 ◆6:00-18:30



### 4 aukai general store

日本製の質の良い服や靴下。暮らしの道具からヨーロッパ製ミリタリーのデッドストックウエアなどを販売する素敵なセレクトショップ。マルシェなどへも出店しています!

◆0532-75-6364 ◆定休日:水曜日(不定休有)

◆豊橋市駅前大通 2丁目71番地1 ◆11:00-18:00



### 5 珈琲とカヌレ

フランスの伝統菓子cannelé de Bordeaux。鋸型に蜜蝋を塗った、王道でクラシックな製法で焼き上げました。FAEMA E71で抽出した珈琲と共にお楽しみください。

◆0532-54-4100 ◆定休日:月曜日

◆豊橋市駅前大通 1丁目114-116 ◆10:00-18:00



### 6 伊勢路本店

昭和44年創業。豊橋でお好み焼きと言えば伊勢路。昔からの多くのファンを持つ、居心地の良い店内と味が自慢のお好み焼き店。

◆0532-53-7012 ◆定休日:水曜日

◆豊橋市駅前大通 1丁目114-1F ◆11:00-20:00



駅前大通りに平行して牟呂用水が流れ、約800m暗渠化し、その上に立つのが長さ約800mの15棟からなる「板状建築物群」の水上ビル。当然今でもビルの下には水路が流れている。

### ROOTS

水上ビルのルーツは終戦直後の閑市までさかのぼる。終戦後の焼け跡に、自然発生的にできた閑市が、旧狭間小学校の跡地に「大豊商店街」として移転。その後、豊橋の中心市街地再開発のなかで、やむなく暗渠化した農業用水(牟呂用水)の上に建てられた。

1

